

JFA 第 8 回 全日本 U-18 フットサル選手権大会
兼 2021年度フットサル2級審判員強化研修会 参加報告書

2021年8月7日
城市 亮祐

期日

事前研修：2021年7月24日(土) 19:00~21:00 (オンライン)

研修期間：2021年7月29日(木) ~7月31日(木) 割当終了まで
(大会期間は7月29日(木) ~8月1日(日) まで)

振り返り：2021年8月14日(土) 19:30~21:00 (オンライン) [予定]

研修会場及び試合会場：西京極総合運動公園 京都市体育館 及び オンライン(zoom)

参加者(9名)：波佐谷 見英氏(北海道)、深堀 祐介氏(東北)、藤田 悠輔氏(関東)、荒井 厚氏(北信越)、
田中 浩和氏(東海)、数田 恭平氏(関西)、網矢 守氏(四国)、
川邊 隆太氏(九州)、城市 亮祐(中国)

インストラクター(6名)：櫻田 雅裕氏、松崎 康弘氏、延本 泰一氏、池田 浩之氏、
芝村 洋一氏、木村 神津司氏

事前研修

講師：櫻田雅裕氏 JFA1級フットサルインストラクター

主な内容：1.はじめに(自己紹介、強化プログラム、大会期間中の体調管理)
2.試合に備えて(トレーニング、および暑熱順化と水分補給)
3.予測とポジショニングの重要性
4.チームワーク
5.大会要項の確認

1.はじめに

- ・研修生の簡単な自己紹介
→1人50秒ほどで、所属の都道府県、大会への意気込み、地域の状況を伝える
- ・講師自己紹介
- ・強化プログラムについて
目的：将来の国際審判員を目指してもらえる審判員の発掘
取組：各年代の全国大会で集合研修を行い実践指導を行う

5.大会要項の確認

→先に今大会のレギュレーションやコートサイズなどを中心に、大会要項を確認

1.はじめに

- ・大会期間中の体調管理
- ・健康管理について
→熱中症の予防をする。(暑熱順化、食生活に注意、水分・塩分補給を意識する)
- ・トレーニングプラン
現状分析⇒課題の選択⇒優先順位⇒目標の設定⇒実践⇒評価(このサイクルを回して向上させる)
- ・心拍数トレーニング
心拍数が高いほど体への負担大、最大心拍数(220-年齢)、ボルグの主観的運動
運動時の目標心拍数(カルボーネン式) $((220-32歳)-55) \times 0.65 + 55 = 141.45$
[強度65%(有酸素+脂肪燃焼)、32歳男性、安静時心拍55回/分]
※強度70%以上は、筋肉からエネルギーを発生させる為、脂肪燃焼には非効率
試合に向けて、逆算してトレーニングを行う。リカバリー(超回復)を使う。

3.予測とポジショニングの重要性

- ・ポジショニング
競技規則[P.101]に記載されているポジショニングの内容について確認。
ピッチに入らない(タッチライン上はピッチ内なので、ラインの上は走らない)。
主審,第2審判のいずれかが最後から2人目の守備側競技者(ラストセカンドディフェンダー)
のところにポジションを取る。
- ・予測 (次に生じうること)
争点はどこにあるのか、最も危険なエリアはどこか、何が見えて何が見えないのか
さらに良いポジションはあるか、もう1方の審判員の視野はどこにあるか

4.チームワーク

成員が一致して目的を達成するための、チーム内の団結・連係。

審判チームとして、どのように対応するか

- ・4つの動画を基に、[3.ポジショニング]と[4.チームワーク]について確認
→ピッチに入らない(タッチライン上はピッチ内なので、ラインの上は走らない)
→ラストセカンドディフェンダーについて行くポジショニングを取れているのか
→審判チームとしてチームワークを活かして正しく判定をしていく

<研修のテーマ>

- ・最適なポジショニングを求め続ける
- ・チームワークを最大限に発揮するために

●事前研修を終えて

今回のテーマである[ポジショニング]と[チームワーク]についてまずは自分の頭の中で整理をして、大会を通してチャレンジしていきたい。特にポジショニングはピッチに入らないことやラストセカンドディフェンダーを意識して試合を通して最適なポジショニングを求め続けられるよう取り組みたい。またチームワークについては、地域で行っていることをまとめ、試合前の事前打合せで共有することでチームワークを発揮できるよう求めていきたい。

7月29日(木)～7月31日(土) 大会審判・研修

<1日目>

7/29(木)

① 【5】 1次ラウンド Aピッチ 12:30 (15-10-15)プレーイング方式
C1 桜ヶ丘フットサルクラブvs C2 北海道岩見沢農業高校サッカー部
R:城市 亮祐氏(中国協会) 2R:田中 健太郎氏(日本協会)
3R:池田 圭佑氏(関西協会) TK:小柳 佑介氏 (関西協会) INS:延本 泰一氏

●担当インストラクターから:

- ・事前研修でのテーマであるポジショニングについて、やろうとしていたことは伝わった。
- ・2RがSPAで警告を出した場面は、なぜDOGSOではなかったのか。
その時の状況や自分が持っている情報があるなら、Rは必ず確認をしないとイケない。
- ・間接FKを採用した場面は、前のプレーで岩見沢82番がトリップをしていた。
なぜ見えなかったのか、その際のポジショニングを考えて欲しい。
- ・1Pでスライディングによるファウルを採用したが、2Pに1Pよりも、より危険と感じるスライディングがあった。その際はなぜファウルとして採用しなかったのか。
その辺りの基準や事象について一度整理をして欲しい。

② 【11】 1次ラウンド Aピッチ 17:45 (15-10-15)プレーイング方式
近江高校 vs フウガドールすみだファルコンズ
R:藤田 悠輔(関東協会) 2R:城市 亮祐(中国協会)
3R:田中 健太郎(日本協会) TK:川西 佑典(関西協会) INS:延本 泰一

<担当インストラクターから>

- ・手の不正使用についてどこで線を引くか基準を明確に伝えられないと選手は納得しない。
- ・集中力を欠いている時間があるように見受けられた。どう集中力を維持するかは頭の体力もあると思う。無意識でもできるくらいに持っていくとより楽に集中力を維持できる。
この研修だけでなく日頃から意識して習慣化して行くことが大切。
- ・1試合目よりもポジショニングに対する意識が低く感じた。
チームの特徴や試合の流れを見て変えたとのことだが、良い予測も含めて、
どうすれば最適なポジショニングを維持できるかを考えてほしい。
- ・アドバンテージした場面は、反則の地点を考えるとファウルと採用したほうが良いと感じた。
- ・シグナルは競技規則通り、一度見直して欲しい。
- ・Rはパスの受け手だけを見て、2Rはボールを追っていて、2人のエアポケットのようなところがあるように感じた。プレーの展開を追い、出どころを予測するとより流れで選手の意図が見れると思うので、実践してほしい。

<1日目の振り返り>

事前研修でのテーマである「ポジショニング」について意識して取り組んだが、1試合を通して最適なポジショニングを求め続けることはできなかった。試合中に比較的展開に余裕がある際や頭がクリーンな際はできていたように感じたが、そうでない際はできていなかったように感じた。日頃から基本的なポジショニングについて意識できていなかった点ができなかった要因と考えます。ポジショニングの他にもシグナルや、打ち合わせの際の他の審判員との連携などで、競技規則通りの基本的なことが非常に重要だと感じ、そこが自身の欠けている点だと強く感じた。

<2日目>

7/30(金)

8:00～ 研修 松崎 康弘氏

- ・ラストセカンドディフェンダーについて
- ・ゴールクリアランスの際のカウント位置について
- ・ unnecessary 笛を減らし、笛による効果を上げる。
ジェスチャーや立ち位置、選手とのアイコンタクト、振る舞い、声かけなどで選手から審判員をより注目させ、コントロールする。
- ・事前研修のテーマに積極的にチャレンジしてほしい

③ 【15】 1次ラウンド Aピッチ 10:45 (15-10-15)プレーイング方式

矢板中央高校 vs ペティロッソ香芝U-18

R:数田 恭兵 (関西協会) 2R:城市 亮祐(中国協会)

3R:梶山 美紗子 (関西協会) TK:川西 佑典(関西協会) INS:池田 浩之氏

<担当インストラクターから>

- ・ポジショニングは問題ないように感じた。
- ・Rと比較するとアウトオブプレー時のポジション移動に差を感じた。
- ・ゴールクリアランスのリリース時の監視ポイントは、朝の研修の通りの位置で実践して欲しい。

④ 【23】 1次ラウンド Aピッチ 17:45 (15-10-15)プレーイング方式

矢板中央高校 vs サンチスタ岐阜

R:城市 亮祐(中国協会) 2R:荒井 厚(北信越協会)

3R:加藤 具哉(日本協会) TK:藤田 武志(日本協会) INS:芝村 洋一氏

<担当インストラクターから>

- ・ パワープレーをしているGKに対して遅延行為で警告した場面は、すでに交代ゾーンで本来のGKと交代を終えた後に警告を出していた。それでは交代要員に警告を出したことになるので、一度本来のGKをベンチに戻し、パワープレーをしていたGKを競技者として警告を示さなければならない。一番は交代させる前に警告を出しきること。
- ・ 客席(応援席)からの声についても試合全体をコントロールするのは主審の為、対応をすべきと考える。コロナ禍で大声による応援は禁止しているので、その点についても伝える。
- ・ 5mのコントロールについては試合を通して毎回同じ対応ではなく、様々な方法で見せ方を考えながら、選手をコントロールするとより良くなる。例えば、「下がって下さい、下がりなさい、下がれ」など語尾を変化させるなどの段階を踏んでいくことが大事。
- ・ ラストセカンドを意識してたとのことだが、串刺しになる場面では角度をつけるなど、最適なポジションを工夫して監視する。
- ・ 10番が負傷した際のシュート後のタックルはラフタックルだと感じた。

<2日目の振り返り>

ポジショニングについては1日目よりも良くなっているように感じた。本日の1試合目は比較的良い出来であったと感じたが、2試合目は全体の試合コントロールにかなり課題を感じた。特に質の悪いファウルや5mマネジメントの際などの[注意]については、今行っている注意はほぼ1パターンで、もしかしたら中国地域内では通用しているのかもしれないが、地域を出ると全く通用しないことを強く感じた。今日指導頂いた、段階を踏んでいくことや様々な見せ方で1試合を通してコントロールしていくことを自身の課題として今後取り組まなければならないと感じた。また朝にあった研修の内容については頭で整理できていないところもあるので、クリアランス時のポジショニングなど、今一度確認して3日目に望みたい。

<3日目>

8:00～ 研修 延本 泰一氏

- ・ ピッチのマーキングを活用した5mの管理について
今回は横幅が20mではなく18mの為、
10mマークから横5mのポイントは、タッチラインからは4mとなる。
つまり、そのポイントから1m下げさせなければならないので、
それを選手に理解させる。
また、10mマークやペナの6mなど、マーキングを上手く使って5mを管理する。

③ 【25】 準々決勝 Aピッチ 10:00 (20-15-20) プレーイング方式
バルドラール浦安テルセーロ vs 近江高校
R:深堀 祐介 (東北協会) 2R:城市 亮祐(中国協会)
3R:南 秋一 (日本協会) TK:北村 朋也(関西協会) INS:櫻田 雅裕氏

<担当インストラクターから>

- ・ 2人のレフリーのファウルの基準が気になった。
取ったファウルは、ペナ内でもファウルと採用してPKを与えるのか。
その辺りも考えて判定を振り返ってほしい。
- ・ キックインで再開のアウトオブプレー時に、審判員がボールをセットしない。
それよりも常にピッチ内を監視する。
- ・ 不必要な笛がまだまだ多いので、今後も引き続き意識を継続してほしい。
- ・ アドバンテージからのロールバックの際は、相手が先にホールドしていたように感じた。
反対のレフリーを視野に入れたレフリングを心がけるべき。

<3日目の振り返り>

ファウルの基準という点を今一度振り返り整理しないといけないと感じた。
他地域の方と組み、審判チームで他地域のチームの試合を担当するにあたり、
ホールディングやブロッキングなどを、どこを基準とするか。
その点については、事前の準備や確認が欠けていたように感じた。
また不必要な笛を減らすことに関しては意識が欠けていた。
笛が多いと笛が本当に必要な場合に効果が薄れることや、笛を使わずシグナルや
ジェスチャーで伝えることで、選手からより審判を注目させる効果があることを
理解して意識的に取り組む必要があった。
この点は地域に戻ってから、必ず意識して取り組んでいきたい。

<全体の振り返り>

今回のテーマの1つである[ポジショニング]については、1日目に感じた通り、1試合を通して常に良いポジショニングを取り続けることは大会を通してあまり出来なかった。[チームワーク]については試合前の事前打合せの際に競技規則通りの動きを求められ、そういったところに自身の意識の低さを感じた。また2日目の研修でお話頂いた[不必要な笛を減らすこと]についても試合を通して意識し続けることは出来なかった。

これらより、競技規則を基にした基本的なことに対する知識や意識の低さが自身の最大の課題であると研修を通して強く感じた。

ただ、全くできなかつたわけではなく、試合で出来ている時間もあつたと思うので、いかに頭をクリーンに保ち1試合を通して継続していくか、無意識でもできる状態まで日頃から意識して取り組み、習慣化させていくかが必要であると強く感じた。

今回の研修を通して感じたことは、自身にとっては次の試合ですぐに改善できるものではないと思うが、意識して取り組み、無意識でもできる状態まで持っていかないと今後審判員として戦っていけないと強く感じたので、数ヶ月後や1年後の姿を想像してレベルアップすることで、今回の研修が活かされたと思えるくらいまで成長していきたい。

また、オン・ザ・ピッチではもちろん、オフ・ザ・ピッチでも1級審判員の方やサポート頂いた関西協会の方々の考え方や振る舞い、意識の高さを感じる事が出来た。特に研修中でも様々なことに気遣いができることは、審判員としてすごく大事でそれを当たり前に行っている点に違いを感じた。審判員として活動している際は謝らず、「ありがとう」などの感謝を述べるなどそういった心持ちも非常に重要だと感じた。

さらに、各地域の研修生とそれぞれの地域の取り組みや考え方、工夫などを共有する時間はとても貴重だった。審判員のフィジカルトレーニングのところなどで地域によって差があることも感じたが、それぞれが地域によって工夫をして上級レフリーを目指している点はとても参考になり、モチベーションの向上にも繋がり、貴重な時間であった。

今回の研修に参加させて頂いたことに感謝しつつ、今回の体験を地域の多くの方に伝えることで地域内でも議論を行い、全体がレベルアップをすることを意識して今後審判活動に取り組んでいくことで、中国地域に還元していきたい。